# 田中春夫先生を悼む

## 弔　詞

これこそ青天の霹靂と申すのでしょうか，去る10月27日午後1時，田中春夫先生が突然逝去されました．先生は，日本における電波天文学の草分けであり，全国共同利用の大型宇宙電波望遠鏡建設の中心的役割を担われ，さらに日本学術会議会員として我国の天文学の将来の発展のために努力されてきました．享年 63 歳は，余りに早い死出の旅立ちであり，ただ茫然と悲しい事実を受け取っています．

先生は，神奈川県生まれ，昭和19年9月東京帝国大学工学部電気工学科を卒業され，同大学大学院特別研究生を経て，昭和 24 年創設間もない名古屋大学空電研究所へ助教授として着任され，昭和 33 年教授に昇格されました．名古屋大学着任と同時に，日本で初めてマイクロ波太陽電波の研究に着手され，26年に余る空電研究所在職中，これを一貫して発展させ，世界最先端の太陽電波観測所を築かれました．この間，太陽電波の発生源を細かく分解して観測できる電波干渉計を世界に先駆けて開発され，黒点上層にある太陽活動域の生成・発達の詳細な観測，太陽電波バーストの微細構造についての研究等に，多大な貢献をなされました．

昭和 51 年東京大学東京天文台教授として転任され，世界最高性能の 45 メートル電波望遠鏡と 10 メートル 5 素子電波干渉計の設計・建設の指揮をとられ，完成に努力されました．昭和 53 年，全国共同利用の野辺山宇宙電波観測所発足と共に初代所長に就任され，昭和 57 年東京大学退官まで所長として，世界一の電波観測所の運営と発展に力を尽してこられました．また，東京大学理学部天文学教室において，電波天文工学の講義を担当されて，今日の日本の電波天文学を担っている多くの後進を育てられました．

東京大学定年退官後は，東洋大学において電波工学・宇宙工学の講義を担当されると共に，校舎屋上に 4 メートル電波望遠鏡を建設され，電波望遠鏡の鏡面測定法の研究を続けてこられました．この研究の成果は，最近の 45 メートル電波望遠鏡の鏡面精度の大幅向上として表われています．

このようななかにおいて，先生は，昭和 45 年から 10 数年にわたる日本天文学会評議員，昭和 46 年から 48 年にかけては副理事長として，日本天文学会の組織運営の改革にも努力されました．さらに，昭和60年7月より

全国天文学研究者の強い支持のもとに，第 13 期日本学術会議会員になられ，このほど第1回の天文学研究連絡委員会が持たれて，天文学将来計画についての議論がなされたところでした．大型光学・赤外線望遠鏡計画も含め，天文学将来計画の策定・推進を意気込んでおられた先生の姿を思うにつけ，こんなに早々に先生を失うことは，日本天文学会にとっても大きな痛手であると痛恨に堪えません．

わたくしたちは，先生が築かれ，大きく育てられた我国の電波天文学の国際的レベルを維持し，さらに世界をリードしてゆけるよう裾野の拡大に努めると共に，天文学の総合的発展に心遣いされた先生の御意志が生かされるよう，なお一層努力をすることをお誓い致します．

先生とのお別れに際し，日本天文学会を代表して謹んで先生の御冥福を御祈り致します．

昭和60年11月9日

日本天文学会理事長
早川　幸男